

# 緑化だより

No.199 令和5年11月号



オオモミジと十月桜  
(撮影 中村 しのぶ氏)

- 季節の花(もみじ  
(かへで、かへるで))
- 水生昆虫の話  
(ミヤマアカネ)
- 小さな世界こけ(ヒメクサリゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うさぎ ぼうし の 水車

## 広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県  
緑化センター  
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

# 季節の花

モミジ(かへで、かへるで)

「わが屋戸(やど)に 黄変(もみ)つ 鶏冠木(かへるで) 見るごとに  
妹を懸(か)けつつ 恋ひぬ日は 無し」

おおもたむらおおじょう  
大伴田村大嬢 万葉集 卷8-1623

これを訳しますと

(我が家の庭に色づいたカエデを見るたびに、このカエデのように、美しい

あなたのことが気にかかって、恋しく思わない日はないのでしょ.)

この歌は田村大嬢が異母の妹(坂上大嬢)に贈った恋の歌です。

モミジという言葉の本来の意味は、秋に草本の葉が赤や黄色に変化することを指しました。

万葉時代は、漢字表記として**黄葉**が使われ、**紅葉**が使われたのは平安時代とされています。奈良時代に「もみつ」から「もみち」となり、平安時代に「もみぢ」、さらに戦後のカナ書き改正で「もみじ」となりました。

カエデの名は葉の形が蛙の手に似ているので、「かへるで」から「かへで」になり、戦後の改正で「カエデ」となりました。

奈良時代から平安時代には、カヘデは特定の樹種を指していましたが、その紅葉が最も美しいので、モミジとカヘデは同じ意味になりました。

現在ではカエデとモミジは植物学的には同じで、ムクロジ科(元はカエデ科)カエデ属の総称です。日本のカエデ属を代表するのはイロハモミジです。本種は落葉広葉樹で山地の溪谷に生育し、福島県から西、太平洋側の本州、四国、九州に自生し、中国地方には自生はないようです。海外では中国大陸、台湾、朝鮮に分布しています。



イロハモミジ

このモミジは京都の高尾山に多いことからタカオカエデの別名もあります。葉の切れ込みが7枚のものが多く「いろはにほへ」と数えたところから、「イロハモミジ」になったという説もありますが、5枚が多いようです。

広島県ではモミジが県木となっています。宮島の紅葉谷公園や岩国の吉香公園ではイロハモミジが植栽され観光名所です。三段峡、帝釈峡のモミジでは、オオモミジ、コハウチワカエデ等が自生して、紅葉の季節は見事です。広島県緑化センターには開園当初から植栽されている県内最大級の大きさの立派なオオモミジがあります。その紅葉は見応えがあります。(上村)

# 水生昆虫の話

ミヤマアカネ

秋と言えばアカトンボ。`夕焼け小焼けのアカトンボ~`と童謡にも歌われていますが、実は「アカトンボ」という名前のトンボは存在しないわけで、赤いトンボだけでも実に様々な種類があります。その中でも最も美しいと称されるミヤマアカネについてご紹介します。

トンボ科アカネ属のトンボの一種であるミヤマアカネ(深山茜)は、日本全土に分布していますが、現在千葉県では絶滅したとされており、長崎県では絶滅危惧Ⅰ類、東京都・神奈川県では絶滅危惧Ⅱ類と、危惧度の高いカテゴリーとなっています。幸い、広島県内では目にすることができるのですが、近くの島根県では準絶滅危惧種に指定されています。

ミヤマアカネは、小川や用水路などの水深が浅く流れがゆるやかな場所に生息しています。

秋に産卵して、卵で冬を越して春にヤゴになるので4~8月にヤゴを見ることができます。

しかしながら、このアカネ属のヤゴの同定というのが、非常に困難極まりなく、特にこの種は羽化させてみないとわからないといった感じです。なので、写真のヤゴは生息場所から推測して、恐らくミヤマアカネか、もしくはマユタテアカネのヤゴのどちらかになります。

終齢のヤゴは体長14~16mm、頭の幅が4.5mmになり、淡い透け感のある黄色っぽい茶褐色に黒茶褐色の斑紋があるのが特徴です。シオカラトンボのヤゴと大きさや見た感じがよく似ていますが、比べてみると全体的に平たくて頭部が広いイメージで、シオカラトンボと同じ、川岸に植物が生えているような土の柔らかい、わりと流れの緩やかな場所に住んでいます。

7月頃になると、羽化して成虫になります。成虫は4枚の翅に写真のような茶褐色の帯があるのが最大の特徴で、若いうちはオスもメスも色が黄色っぽくて薄いのですが、オスは翅の先にある紋がピンク色、メスはベージュっぽい色をしています。

秋が深まるにつれて特にオスは翅の脈も含めて顔まで真っ赤な色になっていきます。メスは濃い橙色のような色になります。この色合いがオスもメスも何とも美しいので、秋のミヤマアカネは、小さいながらも川辺の宝石のような美しさで輝いているように感じられます。産卵行動をする翅まで真っ赤に染まったオスとオレンジ色のメスのペアが連結して産卵する姿は、川面に映える何とも言えない美しさです。

成虫は、11月頃まで見ることができるので、小川の辺を探すと、まだ出会うことができるかもしれませんね。(西村)



アカネ属の幼虫(ミヤマアカネかもしれないヤゴ)



ミヤマアカネの成虫(オス)

## 小さな世界 こけ

### ヒメクサリゴケ

クサリゴケの仲間は暖地のコケで、日本では25属130種が記録されています。

木の幹や枝や常緑樹の葉の上、岩などに着生している小さいコケなので見過ごしてしまいがちですが、ルーペで拡大してみると、丸い葉や三角形の葉がクサリのように左右についているのが見られます。その中のクサリゴケ科ヒメクサリゴケ属のヒメクサリゴケは仲間にミヤジマヨウジョウゴケ、ヤマトヨウジョウゴケなど12種類があります。

ヒメクサリゴケは、雌雄同株。茎の長さは3~7mm。葉の形は長楕円形で背側にやや反り返ります。

右下の写真は1cmの太さのヒサカキの枝に着生していたヒメクサリゴケですが、白く見える粒は孢子体です。(山根)



シダの葉に着生したヒメクサリゴケ



ヒメクサリゴケのコケの孢子体

## 研修会のご案内

- |  |  |
|--|--|
| ○ 11月 1日(水) 『松の手入れ(秋)』<br>秋の手入れについて学び、屋外で実習します<br>※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏、手のご持参     | 10:00~12:00 学習室 集合<br>講師：NPO法人 樹木医ひろしま<br>工藤 徹               |
| ○ 11月 3日(金・祝) 『どんぐりを見分けよう』<br>どんぐりを集めて種類を見分けます<br>※自由参加(随時受付)、無料               | 10:00~15:00 レストハウス前 集合<br>講師：緑化センターボランティア<br>ふれあい湧           |
| ○ 11月 3日(金・祝) 『ネイチャーゲーム』<br>さまざまな自然の遊びを体験しましょう<br>※自由参加(随時受付)、無料               | 10:00~15:00 レストハウス前 集合<br>講師：広島市シェアリングネイチャーの会<br>トレーナー 住吉 和子 |
| ○ 11月 9日(木) 『秋の写真教室』<br>紅葉や秋の植物の撮影を学びましょう<br>※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参              | 10:00~12:00 学習室 集合<br>講師：二科会会員<br>宗岡 泰昭                      |
| ○ 11月 10日(金) 『11月の自然探勝』<br>秋の植物を観察します<br>※自由参加、無料、ルーペ持参、荒天中止                   | 10:00~12:00 学習展示館前 集合<br>講師：緑花文化士<br>横山 直江                   |
| ○ 11月 23日(木・祝) 『剪定基本マスター講座』<br>剪定の基本を学び、屋外で実習します<br>※要予約(先着15名)、剪定鋏、手のご持参、見学不可 | 10:00~12:00 学習室 集合<br>講師：樹木医<br>難波 正孝                        |

## お知らせ・ご案内 ☆

※ 11月は休園日なし (レストハウスは月、木 休業)

・第7回ひろしま遊学の森

四季の移ろい写真コンテスト

写真募集中

締切り;11月30日(木)

詳細はHP,チラシでご確認ください。



・ひろしま遊学の森

スタンプラリー2023 秋

~11月19日(日)

県緑化センターと市森林公園でスタンプを集めてプレゼントゲット!

・もみじ祭り お楽しみイベント 11月3日(金・祝) 10:00~15:00

場所; レストハウス前

紅葉クイズラリー、ノルディックウォーク、草花販売、キッチンカー

・もみじ祭り2023

~11月12日(日)

期間中紅葉クイズラリーでプレゼント ゼット!

## ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

紅葉写真展

~11月12日(日)

第12回ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展

11月19日(日) ~12月14日(木)



「紅葉と秋の植物 写真展」より